

ふたばこども園

園 便 り 6 月 号

ふたばっ子

令和3年5月28日発行

文責 園長 納富博文



あじさい

※園日より「ふたばっ子」はホームページでもご覧いただけます。

子どもの安全や命を守るために

例年より3週間も早く梅雨入りとなりました。これから蒸し暑くなり、雨の日が多くなり、子どもたちにとっては外遊びができず憂鬱な日が続きます。また、豪雨による災害や熱中症、食中毒等が心配な時期になります。

さて、新型コロナウイルス感染症の第4波が佐賀県にも押し寄せてきています。人口10万人に対する感染者率は全国ワースト9位となり、その後も高い水準で推移しています。今流行しているウイルスはほとんどが変異株になったそうです。この変異株は感染力が強く、これまで比較的感染しなかった低年齢から若者層にも感染するといわれています。また、重症化しやすく、感染経路不明（どこで感染するか分からない）が多く、本当に怖いウイルスになってきました。「うつらない・うつさない」や「もちこまない」という強い意識と心がけで、これまで以上に感染症対策を徹底していくことが肝心だと思っています。

お子様に発熱があり、風邪等の症状がある場合は、できるだけ早めに病院に行かれ、園をお休みするなどの対応をお願いしていると思います。また、下痢や嘔吐の場合も症状が落ち着くまで、ご家庭で様子をみていただくようお願いしています。これらのことも「うつらない・うつさない」、「もちこまない」ための対策です。

新型コロナウイルス感染症や食中毒、熱中症や豪雨災害等々たくさんのリスクから、子どもたちの安全や命を守るために、どうぞご理解とご協力をお願いします。

コロナ感染症の流行拡大による行事の延期・中止について

6月8日（火）に予定されていた、県教育委員会主催の新規採用保育者研修会（ふたばこども園公開保育）は、コロナ感染症の流行拡大のため10月に延期になりました。ただ、感染症の状況により今後どうなるのかは未定です。昨年度に引き続き今年度も実施ができなくなりそうで残念です。

また、白石の佐賀農業高校のお世話で、毎年長組が行っていた、「田植え体験」や「小動物とのふれあい体験」、「稲刈り体験」が感染症の流行拡大のため中止となりました。これまで5年間、長組は楽しく貴重な体験をさせていただいていただけに非常に残念です。コロナが治まればまた再開したいと思います。

「むごい教育」というお話

250年も続く江戸幕府を開いた徳川家康を知らない人はいないと思います。これはその家康の幼少期のお話です。家康は幼少の頃に駿河の戦国大名、今川義元の人質になっていました。義元は家来に対して、幼い家康に「むごい教育」をするように厳しく命じました。しばらく経った後、義元は家来を呼び、「どのような様子か？」と訊ねました。家来は、待ってましたとばかりに答えます。

「はい、早朝から起こし、鍛錬をさせ、三食は粗食を与え、昼は馬術や剣術に励ませ、夜は学問をさせ、厳しく教育しております。」報告を聞いた義元は、烈火の如く怒りました。

家来は、「むごい教育」とはどのようにすればよいのかを義元に尋ねたところ、義元は次のように答えたのです。

『寒いときには暖かくしてやれ。暑いときには涼しくしてやれ。空腹の時には美味しいものを与えてやれ。欲しがるものがあれば何でもすぐに与えてやれ・・・そうすれば、大抵の子どもは我がままになり、使いものにならなくなるだろう。』

しかし、家康は強い志をもって「むごい教育」にも屈せず、義元が企んだ役に立たない人にはなりません。おそらく、これは家康の偉大さを誇示するためのストーリーかもしれませんが、でも、実際に義元が示したような教育を子どもたちに積み重ねていけば、その子は人間として堕落の道を歩むことになるかもしれません。

科学技術が進歩し、物質的にも豊かになった今日、もしかすると義元が示したような「むごい教育」が行われているかもしれません。必要以上の干渉（甘やかし）は、せっかく潜在している子どもの能力開花が遅れるそうです。良かれと思ってしていることが、知らず知らずのうちに「むごい教育」になっていたら悲しいことです。

幼児期においては、まだまだいっぱい愛情が欲しい時期であり、必要な時期だと思います。いっぱい子どもを抱きしめ、いっぱい一緒に遊び、いっぱい子どもとの時間を作ってください。『愛情』のはき違えさえしなければ「むごい教育」にはならないと思います。今後の子育ての参考や糧になれば幸いです。昔のお話を紹介しました。